

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の中で地域との活動内容は少ないですが地域との連携を(金峰やすらぎ館運営推進会議、ホーム便り、近隣への夏祭りへの声かけなど)進めています。推進会議に於いては年6回行い意見交換をしています。月に1回利用者の家族に写真など送り家族からの電話などしていただけるようお願いしています。</p>	○
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を共有し利用者との関わりの中で実践し取り組んでいる。理念の内容を職員と検討し具体的内容を盛り込みました。意識しやすいように見やすい場所に掲示してあります。</p>	○
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居前に利用者のご家族へ説明を行い配布しています。地域に対しては部落の集会等にて配布しパンフレットを役場、事業所などに置いています。</p>	○
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>気軽に遊びに来て貰えるよう建家の外や玄関に案内板の表示をしています。部落会の会員として集会に参加したり道路清掃なども行い、回覧板を届けるなどし会話をしています。地元の方の入館などもあり近所の利用者の親戚など来られています。</p>	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>高齢者で在宅でお暮らしの方、認知症や不眠症の方などお悩みの家族の相談にのったり、他のグループホームの紹介なども行っています部落の自治会にも加入し奉仕作業にも参加している。</p>	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅にて高齢者の介護で悩まれている家族に対する相談業務及び他グループの紹介など行っています。介護保険の仕組みグループホームの仕組み等説明しています。又在宅で生活するにはどんなサービスを受ける事が可能か、今後高齢になるに従いいろいろな問題点について相談させていただきます。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価で気づかない点は何点か有りました。すべての指摘に対して職員と一緒に対策を行っています。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	金峰やすら館運営推進会議も第7回と成りました。各方面から意見を伺い改善の参考にさせて貰っています。時には利用者と一緒に食事をしたりしながら進めています。今までの意見のなかでベランダの拡張など行っています。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の更新や法の改正時など市の担当者と打ち合わせを行っています。本年度は実地指導がありその際書面指導を一部受け改善して参りました。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今まで権利擁護事業や成年後見制度を必要とされる方がいませんでしたが市の福祉課にてその内容について説明を受けたり市の広報や冊子にて学んでいます。又研修会などにも参加し職員会議などで報告を受けています。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成19年度介護支援専門委員専門研修において人権の尊重及び権利擁護の中で高齢者虐待問題についての内容が有り、報告を受け職員に報告がありました。今回の実地指導に置いて重点項目でした。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の際には重要事項説明書の内容を説明し、利用者や家族が納得してから契約の印鑑を貰っています。解約の際にも今後の行き先を決めてから納得して貰って解約しています。</p>	○	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より利用者との会話を密にし信頼関係を築いています。又家族への電話の取り次ぎや生活状況など随時報告し写真なども送っています。自由に家族に意見が言えるように面会は自室(個室)で行っています。</p>	○	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月々の請求書を送付の際、行事の写真や預かり金の状況を同封しています。年2回の機関誌の配布や一年間の行事などをまとめたものなども送付しています。日常のなかで個人に変わった事が有れば連絡をとり、病気などの時はドクターの指示が有れば病気の内容を含めて連絡しています。</p>	○	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等で面会に見えられる方には玄関に意見箱を設置しその旨表示してあります。外部者には部落の総会や清掃等で意見を聞いています。年一回の夏祭りの時終了後家族だけで集まって意見を出して貰っています。意見を参考にして改善しています。</p>	○	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議にて必ず一言は話して貰っています。連絡簿を作り意見を記入して貰い全員が確認のサインをしています。日々の引継の際にも気づいた点など意見を出しています。</p>	○	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の要望に応じて職員の勤務変更をしたり、希望休暇を前もって取り入れたりしています。体調の悪い利用者がある場合なども実状に合わせて勤務の調整を行っています。</p>	○	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員との馴染みの関係を大切にし常に会話に努めています。職員の退職には退職願いを一ヶ月前には提出させ次の職員への仕事の引継をスムーズにし利用者に不安を抱かせないようにしています。</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職種で研修の日程を決め年間一回は研修に行くように計画しています。緊急の研修にたいしても勤務の変更など行い参加しています。職員の全体のレベルアップするため新人にたいしては必ず基本をマスターするための研修に行かせています。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム協議会へ参加し、研修等にも参加し地域のグループホームとは電話等にて情報交換を行っています。	○
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に決まった部屋は有りませんが休憩時間などにテレビを観たり会話が出来る場を設けて自由に会話されています。悩み事が有れば相談して貰えるように声かけしています。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々運営者から状況を求められています、月末にはすべての資料に目を通され的確な指示を仰いでいます。研修報告なども結果をしています。	○
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申し込みから始まり、その生活環境をプライバシーを守りながら本人が悩んでいることが何か、家族が悩んでいること、希望など担当職員が話す機会をより多くもつ事によって受け止めている。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在の生活のなかで相談を受けた内容を検討し、今困っていることを話し合い安心して情報提供して頂けるように会話に努めています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られたとき今すぐにも受け入れて欲しいと家族は訴えます。今すぐ入居は難しい時は介護保険の内容や仕組みを説明し利用出来るサービスなど紹介しています。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に重要事項の説明と家族、利用者本人に当ホームを観ていただき自分の家として位置づけられるグループホームなのか自分や家族で確認して貰う。寂しさやとまどいがある時は馴染みのものなど居室に持って来て貰って安心して自分の家と同じように過ごせる環境を整える。	○	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活にも慣れ会話もされるようになったら餅つき、洗濯物をたたんだり、そば打ち、カレンダー作り、など楽しく過ごせる時間を作りお互いに支え合う環境を築いて行く。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を中心に置くのではなく利用者と家族とのコミュニケーションをいかに取って行くか、家族にも係わって貰えるように連絡を取り、本人の気持ちにそえるよう一緒になって生活していません。特に遠方の家族は疎遠に成りがちなので本人への電話などのお願いをしています。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に対しては機関誌や写真などを送り、地元の家族には当館にて行う行事にお誘いをしています。本人との会話を通じ家族へのおもいなどを聞き面会時や電話で伝え支援に努めている。キーパーソンを決め家族の中心的役割をはたして貰っています。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の方の要望に応えられないので近くのお寺に行ったり初詣など利用者の家の近くに行ったり、ドライブなども懐かしい思い出の有る所などにしています。利用者の近隣の方や親戚の方々も良く面会に来て下さっています。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループホームではいろんなレベルの方がいますがレクリエーションは全員が参加出来る内容にしています。認知症の度合いによっては利用者同士で非難仕合うことの無いよう職員が気を付けています。幸いいいじめもなく皆さん楽しく生活されています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の事情で退館されても家族が安心して次に行かれるまで家族と連絡を取っています。どこに行かれたか記録しその後についても把握しています。	○	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の利用者に担当職員がおりケアマネジャーを中心に話し合いの機会を持ち、それぞれに心身の状況を作成して対応しています。その内容については職員会議や担当者会議にて討議しそのかたの思いにそえる支援が出来るように努めています。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入館時のときには家族と利用者に対して入居される方の生活をお聞きしますがなかなか入居されると聞き取りと違う事が多いのでより詳しく実情を把握していくようにしています。施設や病院に対しては情報提供を貰っています。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者状況を作成し各担当者が毎月職員会議にて一ヶ月の報告を行っており、他の職員もその状況に応じて同じ処遇を行っています。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を主たる課題としてとらえ面会の時家族の意向等聞き出して担当者会議を開催し本人を含めて(時々)行う。介護計画については家族に直接送付し承諾印を頂いています。その際手紙や写真など同封しています。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間の更新時はもちろんのこと半年に一回は介護計画の見直しを行っている。本人が身体的に変わった事があれば(良い方向の時、悪い方向の時)計画の見直しを行っています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録、介護支援経過表に毎日記録して介護計画にいかしています	○	
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自分達で作る食事、個人の嗜好にあった食事、(嗜好調査などおこなって)。入浴時その方のペースに合わせてプライバシーの保護など守り大切にしています。少人数で有るがゆえに細かい所まで一人ひとりに目配りが出来ます。	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	やすらぎ館推進会議のメンバー(市の職員、民生員、家族代表、文化人)との交流、ボランティアの慰問、避難訓練時の消防署との連携など、必要性に応じて交流させて貰っています。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣りにある同じ年代の方々のいるデイサービスとの交流をはかっています。本人の意向で他のサービスの要求があれば他の事業所との話し合いなど行い利用出来る様に行きます。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	グループホームにおいて包括との連携はほとんど有りません。介護プランにしても生活の基盤にしても独自のものとなっています。今後は市の方針に沿って行きます。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	確保している。協力医としてお願いしている病院より月2回往診に来て貰っています。又本人家族の希望の病院があれば利用して頂くように支援している。特に眼科の受診などは専門医にお願いしています。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
..			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等に於いて言葉使いや記録などの勉強会を行い指導しています。気付いた点があれば注意して行くようにしています。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物に行きたい、地域の行事に参加したいと要望は沢山ありますが全てに応えられないのでその希望を年間計画の中で取り入れて行っています。個別には職員の多い日に応じています。意思の疎通の取りにくい方には日頃の会話の中でかまらずに聞くようにしています。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて入浴など会話をしながらゆっくりとおこなっています。高齢者の場合眠るのが大好きと言われる方が多いですが、すべてを個々のペースに合わせることは難しいです。自分で出来ることは少しでも行って頂くようにしています。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は各自が自由に選び入浴時に職員に指示します。髪型も月1回美容師の方が来てくださり、御本人の要望に応じて整髪、パーマ等行っている。要望があれば近くの理髪店、美容院を利用している。一人ひとりの好みの把握に努める。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一諸に食事をして、食べ残しがある時には入居者の気持になって声かけを行っている。歩行に支障のない方には食事作り、片付けなど一諸に行っています。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定期的に嗜好調査を行いノートに記録し献立作りに役立っています。お酒や飲み物、おやつなども含め定期的に出しています。旬の食材や果物などを提供し季節感を感じて貰っています。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄動作を把握し排便表を作り、声かけ誘導を行っている。日々のリハビリなどに工夫を加えて実施している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調の悪いとき、入浴したくないとの本人の希望や状況に応じて対応している。ゆっくり、ゆったりを心掛けている。(週3回) 個々の状況に応じて毎日入浴や清拭を行っています。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤日誌や個別記録等で、一人ひとりの睡眠状態の把握をし、昼間に眠る事無く充実して過ごせるよう支援している。それぞれが個室なので本を読んだり仲の良い利用者や談話などされている。眠れない利用者にはホールで話したり和室で休んで頂く時もある。	○	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、園芸、食事のメニュー書き、テレビを観たり、新聞を読んだりされています。外出する機会も多く取り、遠足、花見、食事会、地域の催し物の見学等、日々の生活の中で支援しています。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっていますが、本人の要望に応じていつでも使用出来ます。物盗られなど有る方は家族と相談して全額預かっています。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日遠足、散歩、買い物、ドライブ、地域行事、初詣など気分転換をして貰い色々な企画をして来ました。外に出られるときは一緒に行動し見守りを行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事としては花見、一日遠足、ソーメン流し、地域の行事、初詣など企画し実施しています。家族も家でのお祝いや、正月、年忌等の際一緒に帰宅され外食など楽しんで帰館されます。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話のダイヤル援助や、受信時の取り次ぎなど、プライバシーに配慮して支援を行っている。又手紙等の代読は御家族、ご本人の要望に応じて行っている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人、友人の訪問時には、挨拶や居室への椅子の準備、お茶出し、近況など話し報告している。面会時間はフリーです。	○	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、全職員で勉強会を行って認識しています。以前いらした方については相談し家族と契約書を取り交わしています。現在身体拘束は行っていない。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は帰宅願望のある方がいましたが日中は施錠はしていません。玄関にセンサーを設置し出られた時気付くようにしています。本人と話をしたり他のことに気持ちをそらすような会話をしています。またホールにて職員が常に見守りをされています。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	それぞれが個室ですので昼間はホールにて出来るだけ過ごして頂きます、ホールは台所と対面になっており見守りをしています。夜は居室の見回りなどし、所在の確認をしています。頻回に居室から出られる方は出入口にセンサーやマットなど於いて出られたら気付くようにしています。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の保管はスタッフルームの開き戸の棚にて、入居者の目にふれない場所に保管している。危険名物は保管場所決め出しっぱなしにしないようにしている。特に包丁の管理は夕食後は開き戸に片付けカギをしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を事故発生時に作成し、職員会議も議題として取り上げ内容の検討など全職員が周知し事故防止に役立っている。行方不明に備えては、入居者の写真を個別に撮りアルバムにしてあります。火災に対しては年二回消防署の指導のもと緊急対応を含めて訓練しています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年消防署の方の指導のもと緊急時の応急処置等を学んでいます。又いろんな事故に対して対応マニュアルを作り、全職員が把握している。緊急時の本などを購入し初期対応などに備えています。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回火災や水害時に備え訓練をしています、利用者自身も外に出て非難方法を身につけています。地元との交流もはかり初期対応がスムーズに行くよう会合等においてお願いしています。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりが体力、認知度の違いなどがありそれぞれにリスクを背負っていますので家族を含めて話し合っています。万一に備えあつては行けないことですが保険に加入しています。	○	
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕のバイタルチェック、食事、水分量の記録、体調異常時の様子観察など個別に作成し対応している。(生活介護支援経過表、バイタルチェック表)	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月二回ドクターの往診があり、訪看も立ち会っています。個々の薬の管理や説明書は個人ファイルに綴じており個人の薬の仕分けは訪看が行っています。状況の変化についても職員と訪看で話し合い情報を共有しています。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の声かけ、毎日の乳製品、食物繊維の摂取や歩行運動など行っていると共に便秘の方は排便チェック表を利用し訪看と相談しながら服薬の管理を行っています。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔洗浄の声かけ、一部介助を行っている。義歯洗浄使用者も一人ひとりに応じた支援を行っている。歯ブラシや歯磨き粉などの管理も行っています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスについては献立の内容を専門の栄養士に観ていただいています。食事の摂取量と残をチェックして日々記入しています。今までのデータをもとに食事の量を個々に合わせて食事を提供しています。水分量も三食共にチェック表を使用し一人ひとりに支援しています。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成しいつでも見られるように、スタッフルームに置いている。手洗のタオルをペーパータオルにしたりインフルエンザの予防接種も行う。又消毒液を設置し常に手洗いの励行を含めて実行しています。検便も定期的に職員を対象に行っています。又水質検査も年に一回実施し玄関前の見やすい所に掲示している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前は手の消毒を行う。調理用具は殺菌してから使用しています。食材は生ものに付いては当日配達して貰い、その他の食材は週三回買い物に行き新鮮な食材を提供しています。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外の看板も新しくしたり、玄関ホールのドアにも看板を下げいつでも訪問者が気軽に中に入れるようにしています。玄関までの歩道には季節の草花をプラウターに植えて配置し訪問者が気軽に入れるような雰囲気作りをしています。駐車場の確保、入り口までのスロープなど車椅子の方でも気軽に来て貰えます。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやトイレなどに季節の花を生けたり装飾を行い、家庭的な雰囲気作りを心掛けています。外に出る機会を多くするためベランダを拡張しお茶会など天気の良い日は行っています。昼休みに目覚めたときは音楽など流して心地よい目覚め促しています。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや和室にテレビを設置し、和室にはソファを置き入居者が自由に過ごされている。又一人でのんびりしたい時は中庭のウッドデッキにて外など眺めています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	それぞれが個室ですので自分の家として利用して貰って います。家族の写真や仏壇など馴染みにも大切なものなど 置かれています。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各居室、ホールに温度計を設置して冷暖房の温度調整や 窓、玄関等の網戸を利用し換気にも注意して開閉を行って いる。季節の変わり目、昼夜の温度差に気を付けています。	○	
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内(廊下、トイレ、浴室等)の手摺りの設置、浴槽内の 滑り止めマットの使用、脱衣所の立ち上がりの手摺りなど安 全面の工夫をしている。廊下から洗面所トイレ迄手摺りを延 長し安全を図った。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	ホーム内の部屋等のドアーは引き戸に成っている。壁のシミ やよごれはその都度補修等で対応を行っている。大きなシミ などは業者に張り替えを依頼する。少し失敗されても怪我な どされない範囲で茶碗や食器など洗ったりと手伝って貰って います。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	中庭では園芸、野菜作り、草取り、洗濯物、玄関先でのプラ ウターの野菜、草花の水掛、ホーム周辺の散歩など行ってい る。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

遠方に家族がおられたり、近くにいてもなかなか来られない家族に変わり病気に対するフォロー（通院）については利用者の健康管理を含めて十分に対応しております。緊急時の時は夜間時などを含め訪問看護と連携を取り対応しています。